

令和5年度 学校評価の集計結果

教頭 小野 章

昨年度に引き続き、アンケートアプリケーション『Forms』を活用し、学校評価を行いました。全家庭79%にあたる592件の保護者の皆様から貴重な回答をいただきました(※昨年度より19%増加)。皆様の御協力に感謝申し上げます。結果の概要といたしましては、全21項目に占める肯定的な評価(「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%を超えるもの)をいただいた項目の数は17項目で、昨年度より2項目増えております。本校生徒が保護者や地域の方々の御支援を受けながら逞しく成長していることを高く評価していただいております。四中魂の“燃える心”、“奉仕する心”、“感謝する心”の日常化を目指して指導をしてきた成果とも読み取れます。一方で、肯定的な割合が80%に満たなかった4項目(①③⑤⑧)については、数年間同様の傾向を示しており、抜本的な改善が求められると考えております。

【肯定割合が80%未満の項目】

| | |
|----------------------------|--------------|
| ①「自ら学習に取り組み、学力を伸ばす努力をしている」 | 71% (昨年度63%) |
| ③「自らの健康増進と体力の向上を図る努力をしている」 | 76% (昨年度67%) |
| ⑤「勤労をいとわず進んで奉仕することができる」 | 76% (昨年度69%) |
| ⑧「将来の進路や職業について計画的に指導をしている」 | 77% (昨年度71%) |

<具体的な改善策について(抜粋)>

(1)主体的に学びに向かう姿勢の向上、確かな学力の定着

生徒の学習意欲を引き出し、主体的に学習に取り組む姿勢を育むためには、達成感が得られる課題や学習に向き合うための十分な時間が必要と考えます。出題範囲が狭い小テストを設定し、テスト前の諸活動停止期間をこれまでより長くしてまいります。

(2)豊かな心と健康な体の育成

道徳や特別活動の授業を更に充実させ、集団との関わりの中で人間関係を形成することを指導します。興味・関心のあることに取り組む時間が確保されるように、教育課程(放課後の時間など)を抜本的に見直し、休養日の確実な設定と併せてオンとオフを明確にします。

(3)礼節をわきまえ、勤労をいとわず進んで奉仕することができる心の育成

あいさつやボランティア活動といった善行を大いに称える(表彰等)ことで、生徒自らがポジティブな気持ちで取り組むことができるように努めてまいりました。継続するとともに、清掃については重点的に行う日を設定し、メリハリのある取り組みとしてまいります。

(4)進路や職業についての計画的な指導

将来における社会的自立のために、自己(の適性)を知り、職業について調べ、働くことの意義について考えを深めることを目的に「総合的な学習の時間」について改善を図り、個人またはグループによる発表の機会を設けることをしてまいります。また、進学(入試)指導についても、1・2年生から計画的に実施してまいります。

(5)いじめや不登校の未然防止

生徒の悩みや課題に対し、担任一人が抱え込んで対応するのではなく、複数の職員で早期に組織的な対応を図ることや家庭との連携を大事にしてまいります。不登校の状態となっている生徒への支援策として、適応指導教室・ステップアップルーム(SUR)における指導体制を充実させてまいります。

With コロナから After コロナの時代となり、ただ前に戻すのではなく経験を生かした新たな学校運営をしてまいりました。「学校」「家庭」「地域」との連携は教育活動の基盤であると考えております。これまで以上に地域と連携する中で充実した教育活動が展開されるよう計画してまいります。